

曼殊沙華の“赤と白”

近年は厳しい残暑の影響もあり、9月後半になっても秋の始まりを体感できていませんでしたが、今年は「暑さ寒さも彼岸まで」という慣用句通り、彼岸（秋分の日）頃までには厳しい暑さも和らぎ、昨年よりは“秋らしい”スタートになったと思います。

この季節になると、鮮やかな深紅の花をつける彼岸花（別名「曼殊沙華」）が見頃を迎えます。中国原産ですが日本においては史前帰化植物に分類され、多年草で球根植物（地下の球根を増やして広がる）のため、自然界では農作業や洪水等で移動しながら、全国の田んぼの畔、道路の法面や河原に点々と生育しています。

関東では、埼玉県日高市巾着田（きんちゃくだ）の「曼殊沙華公園」が名所として知られ、例年9月中旬から10月上旬にかけて約500万本（日本最大級）もの曼殊沙華が咲き誇ります。東京都内ですと、約40万株が園内を彩る「府中市郷土の森博物館」が人気となっています。ちなみに、曼殊沙華を数える対象が茎・花の場合は「本」、地面の球根の場合は「株」となるため、「本数」と「株数」が混在して表現されています。



東京都・府中市郷土の森博物館の「曼殊沙華まつり 2026」より

曼殊沙華と言えば圧倒的に赤い花というイメージですが、実は白い花も存在します（もっと少数派ですが、黄色、ピンク色、オレンジ色もあるそうです）。赤と白の大きな違いは、赤が中国原産の原種で繁殖力が強いのに対し、白（シロバナマンジュシャゲ）は赤花と黄色いショウキズイセンの“自然交配種”であり、繁殖力が弱いという点です。赤色と黄色が交配して白色になるとは、なんとも不思議な感じがしますが、花言葉も色によって異なり、赤色が「情熱」や「独立」なのに対し、白色は「想うはあなた一人」「また会う日を楽しみに」と少しはかなげで素敵です。

一方、曼殊沙華の学名は“Lycoris（リコリス属）”ですが、細長く反り返った花びらと、長く突き出た雄蕊の形がクモの姿を連想させることから、英語では一般的に“red spider lily（レッド・スパイダー・リリー）”と呼ばれており、日本の花言葉とは少し印象が異なっています。個人的な話で恐縮ですが、秘密組織DAのエージェントである「リコリス」としての顔を持つ二人の少女（千束（ちさと）とたきな）が様々な事件に立ち向かい、犯罪を未然に防ぐ姿を描いた『リコリス・リコイル』という日本のアニメーションを思い出しました。原作者名は「Spider

Lily」、千束を含むDAの制服が赤色ベースであることから、曼殊沙華からインスパイアされたんだろうなと改めて納得しました。

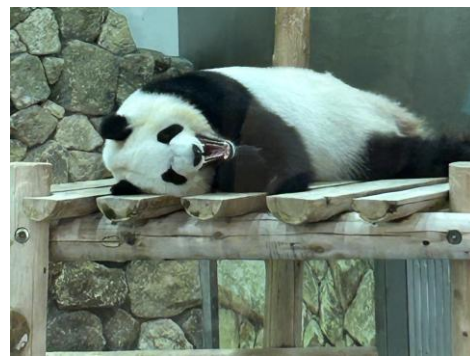
さて、見た目がとても鮮やかな曼殊沙華ですが、実は全体にリコリン、ガランタミンなどのアルカロイド系の有毒成分を含んでいるため、不用意に口にしないように注意が必要です。特に「球根」の部分に多く毒が含まれており、昔は田畑のあぜ道や墓地周辺に植えて害獣から守る知恵として使われていたそうです。

“白” か “黒” か

さて、色の話から派生して、少したけ白と黒の雑学ネタを紹介します。

白黒模様が素敵な動物はたくさんいますが、それらの毛の色と地肌の色はどうなっているのでしょうか？

まず、ホルスタイン種乳用牛ですが、毛を剃ると地肌も白黒の色をしています（毛の色と地肌の色が一致）。一方、パンダの地肌は白～ピンク色をしていて（和歌山「アドベンチャーワールド」公式X #パンダ沼クイズより）、黒い毛が生えている部分の下の地肌も白い毛の部分と同様の色であるため、毛を剃るとツートンカラーではなくなってしまうそうです。また、シマウマは地肌が黒色をしているため、毛を剃ると黒っぽくなってしまうそうです（白黒の縞模様ではない）。ちなみに、白黒ではありませんが、トラの地肌はトラ柄とのこと。



毛の色と“被毛コルチゾール濃度”の関係

牛のストレス状態を評価する方法はいくつかありますが、採血（保定を含む）はそれ自体がストレス負荷になりかねないことから、慢性ストレス評価においては非侵襲的に採取できる被毛（ひも）を用い、被毛中に蓄積したコルチゾール濃度を測定することがあります。しかし、牛の毛は白かったり黒かったりするため、どこをどう採取したらいいのか悩むわけですが、それらに関して調査した文献がありましたので紹介します。

Ebtissem Brahmiら（Ruminants 2025）の報告によると、同じ個体または同条件の牛から採取した被毛を比較した場合、黒色の被毛は白色の被毛よりもコルチゾール濃度が高かったとのこと（図1）。その理由の一つとして、黒色の被毛は毛に含まれるメラニン色素が光（紫外線や人工光）を吸収するため、被毛内部に蓄積されたコルチゾールが光によって分解されづらく、一方白色の被毛は光による分解を受けやすく、測定値が低めに出る傾向があると考えられているようです。（W. Otten ら、Animal 15（2021））

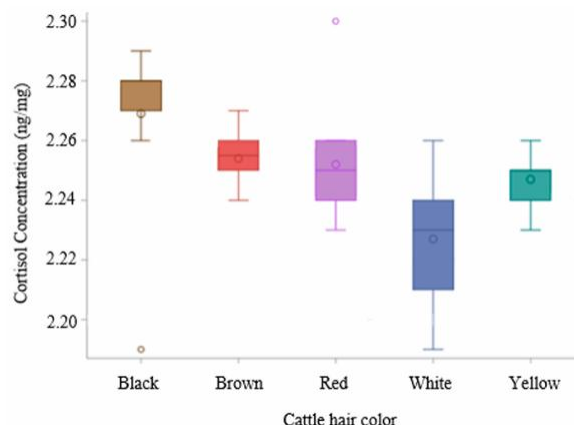


図1 毛色の違いと被毛コルチゾール濃度（Ruminants 2025）

また、Jalil Ghassemi Nejadら（Anim Sci J. 2017 Jan;88）は、被毛全体のうち黒色の割合が80%以上の牛（黒優位）は、白色が85%以上の牛（白優位）に比べて、夏の暑熱環境下で被毛コルチゾール濃度が有意に高くなると報告しており、黒い被毛は直射日光による熱を吸収しやすいため、牛がより強い熱ストレス（暑熱ストレス）を感じている可能性が示されています。

曼珠沙華を題材にして詠んだ俳句は数多くあるようですが、近代の俳人・高浜虚子の句「曼珠沙華あれば必ず鞭打たれ」が有名な句の一つだそうです。私ごとでは理解できませんでしたが、ただ美しいだけでなく、どこか物悲しさや宿命的な厳しさをたたえる曼珠沙華の姿を、鋭い感性でドラマチックに表現した名句として知られているそうです。感性を磨くって、なかなか難しそうですね。（O）

お知らせ

印刷用の PDF ファイル

印刷用に PDF ファイルを添付しました。PDF ファイルをご利用いただくためには、Adobe Reader が必要です。お持ちでない場合、[こちらからダウンロードし、インストールしてご利用ください。](#)

メールマガジンへの登録・ご質問等

メールマガジンの配信の停止や登録内容の変更、お問い合わせ、ご意見・ご要望等々は[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

アドレス変更をお忘れなく

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き日産合成工業株式会社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。配信できなくなったアドレスは、メーリングリストから自動的に削除しておりますので、よろしくお願いします。

QR コード

QR コードから、[当社のウェブサイト](#)のトップページにアクセスできます。

